学校だより

令和８年 10 月 26 日
横浜市立上白根小学校
【11 月号】

http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamishirane/

自ら考える子

副校長　　菅野　光宏

子どもたちはそれぞれの目標や期待を胸に、後期の学校生活をスタートさせています。私たちが大切にしたい子どもの姿の一つが、「自ら考える子」です。

「考える」とは、正しい答えを早く見つけることだけではありません。なぜそうなるのかを思いめぐらせたり、自分はどうしたいのかを確かめたり、相手の思いを受け止めながらよりよい方法を探したりすることです。学習の場面でも、友達との関わりの中でも、子どもたちは毎日たくさんの問いと出合っています。授業中に、「なぜそうなるのだろう」と問いをもったり、友達の意見を聞いて自分の考えを見直したりすることも大切な学びです。学校生活での「考える」場面の一例を紹介します。

〇国語の説明文の学習で、筆者の伝えたいことを理解し、それに対して自分の考えをまとめ、文章にする。
〇算数で、ある解き方と別の解き方を比べ、共通点や差異点を見つける。
〇図工で、材料や道具をもとにどんな作品をつくるか計画を立て、制作に取り組む。
〇体育のボール運動で、チームの特徴を生かして作戦を相談し、考えた作戦を試してみる。
〇係活動で、学級のみんなのためによりよい活動をメンバーと相談する。
〇高学年の委員会活動やクラブ活動で、みんなが楽しめたり、気持ちよく過ごしたりすることができるように互いにアイデアを出し合い、具体的な活動を考えていく。

など



こういった姿にも、考える力はあらわれます。また、友達と考えが違い、意見がぶつかったときに、自ら考えることで、折り合いのつけ方を学んだり、相手の気持ちを考えて自分の行動を選んだりすることができるのです。



これからの時代を生きる子どもたちには、教えられたことを覚える力だけでなく、自分で気付き、自分で考え、行動していく力がますます大切になります。上白根小学校では、こうした日々の積み重ねを大切にしながら、一人一人が自分の考えをもち、伝え、よりよく行動できる子どもを育てていきます。



ご家庭や地域のみなさまにも、子どもたちのつぶやきや疑問を聞き、子どもたちが自ら考える時間を温かく見守っていただければと思います。学校と家庭、地域が力を合わせ、子どもたちの「考える力」を伸ばしていけるよう努めてまいります。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。